

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会第16回定例委員会
日時	平成19年10月26日 自 15時02分 至 16時06分
場所	苫小牧市役所庁舎10階第3委員会室
出席委員	委員長 吉本俊憲 委員 鈴木正樹 委員 佐藤郁子 委員 佐藤守 委員 山田真久
欠席委員	
会議録署名委員	鈴木委員
会議録作成職員	総務課総務係主事 上川裕樹
事務局職員	学校教育部長 澤田石綱紀 スポーツ生涯学習部長 今田和史 総務課長 照井進 総務課副主幹 池淵雅宏 総務課総務係主事 上川裕樹
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（吉本委員長） …15時02分
2	会議録署名委員の指名（鈴木委員）
3	報 告（山田教育長）
	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学芸会・学習発表会も11月の東小とやまなみ分校を除き、この週末でほとんどが終了する予定。二学期の大きな学校行事を充実した成果で終わらせ、次第に落ち着きを取り戻しながら、これからは授業公開・校内研修などに力が入る時期である。子ども達に楽しくわかる授業を提供し、確かな学力や豊かな心など「生きる力」の育成を目指して、二学期のまとめに向かうが、こうした時に全国学力・学習状況調査の結果が一昨日文部科学省の方から発表された。
	(1) 全国学力・学習状況調査の結果
	膨大なデータのため9月を目途にした発表が遅れ、さらにこの間、文部科学省は加熱した競争や序列化による勝ち負けの格差への不安が現場にあることから、公表は避けるようにという通知を出し、道教委も同じ見解を示した。これを受けて、市教委も8月の定例教育委員会で数値による公表はしないこと、また、先月の教育委員会では、公表の方法と内容は今後「検討委員会」を設置して協議することを確認している。
	今回、公表された内容を各種報道から受け止めると、全国と北海道の比較では、平均点ですべて下回っており、ショックを受けたという声も上がっている。一位の秋田県との差では10%の開きがあるが、全国平均点との比較では、最も低かった小6の算数Aで-5.3%、中2数学Aが-3.3%であった。一般的には±5%程度というのは、そんなに違わないということが言われており、文部科学省の方もおおむね理解はしているという表現をしているが、1位と最下位との間では10%以上の開きがあるということになると、相当大的な格差が出ているということがはっきりしている。
	数字で順位が示されれば比較され、この結果をどう受け止め、どう改善するのか、

学校や行政の対応策がマスコミや市民・保護者の関心事となってくる。

学校外の生活調査の結果からは、北海道の子どもの家庭学習時間が短い、あるいは学校の放課後や長期休業中などの学習補完の場や読書の時間、学習塾への通いが少ないなどとの関連を指摘する声があった。また、家庭や地域の経済格差が学力に大きく影響しているという見方もある。

この調査の目的は「学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施設の成果と課題を検証し、その改善を図る」ことである。今後、詳しい分析を踏まえ、国が教育政策にどう反映させていくのか注目したいところであるが、道教委も改善検証委員会で論議するとしている。各学校においても自校の教育活動に生かされなければならず、市教委も検討委員会を早急に立ち上げて、各学校の改善についてアドバイスをしていきたいと考えている。

このことについて、後ほど補足説明があるので、ご意見をいただきたいと思っている。

(2) 管内教育長会議について

10月初めに管内教育長会議が胆振教育局で開催され、懸案であった職員評価制度と査定給与制度の導入についての説明があったので、事前にこの場で報告する。

はじめに職員評価制度については、地教行法に基づく勤務評定として実施するもので、道教委は3年前に民間の有識者で構成する検討委員会を設置し、その報告を踏まえ、昨年北海道立学校職員及び市町村立職員の評価に関する要綱を決定し、今年4月からは道立学校の校長・教頭・事務長については全員、一般教職員等については抽出した50校でこの9月から実施するとともに、各市町村教育委員会へ10月に通知したもので、来年度からすべてで開始する計画である。

次に、評価制度の基本的な考え方は、「学校の活性化と教員の資質能力の向上に資するものとして導入され、その成果が児童生徒に還元されることを目標として実施されるもので、学校職員の意欲の向上につながるものでなければならない」とし「人材育

成に主眼を置いており、教職員の順序付け、管理強化を目的とするものではなく給与
への反映や人事への活用も行わないもの。査定昇給制度とは別の制度である」と説明
している。
評価の方法については、年度始めに自己目標を設定する、達成に向けて1年間実践
する、その成果を自己評価と評価者評価（校長は教育長が指定する教育委員会職員、
または教育長）（教頭は校長または教育長が指定する教育委員会職員）（教諭等は教頭
と校長）で確認し、それを自己啓発と次年度目標の設定に反映するという一連のサイ
クルである。評価は評価シートで行い、設定基準日は5月1日、評価基準日は2月1
日であるが、評価結果の開示については、対象者本人が申し出た場合本人に対しての
み実施する。
なお、今後の対応は地教行法で「県費負担教職員の勤務評定は、都道府県教委の計
画の下に、市町村教委が行う」とされており、本格実施の要領等を決定した後の実施
判断は各市町村教委となる。
査定給与制度については、これも20年度から実施するとの方針で通知されている。
従来は勤務が良好か良好でないかという2区分で、おおむね5年間で全員に1号俸昇
給が与えられていたが、これに対して勤務実績に応じた給与を確保することで、士気
向上を図り組織の活性化に資することを目的に行うものである。
概要は、昇給の区分をAからEまでの5段階とし、Cを従来の定期昇給、Aが倍、
Bも1.5倍となり、D・Eは戒告以上の処分を受けた、あるいは年間1/4または
1/2以上勤務していないという絶対基準に基づいた評価となる。
評価の手順については、道教委から管内へAとB区分の人数枠配分が示され、教育
局はさらに市町村に枠配分し、市教委は学校から上がってきた評価者を見て判定し、
胆振教育局に内申、最終的に教育局の判定調整委員会が決定するという流れとなる。
なお、評価者は先ほどの教員評価と同じである。
判定の要素・配点について、定期昇給用とボーナス時の勤勉手当等への配点配分が
異なり、管理職は業績・能力の配点が多く、一般職は態度・能力に配点が多くなって

いる。
いずれにしても、組合との協議は進まず、先行きどうなるか分からないが、道教委で計画を示したわけで、後は市町村の判断で可能なところから実施してもらいたいと言うことも考えられる。今後の状況を注視し、後日教育委員会としての審議をお願いする場面が来たらよろしくお願ひしたい。
・ 最後に、明日27日は明倫中学校の開校30周年式典、11月3日は文化奨励賞の表彰式、10日には緑陵中学校の10周年式典、16日にはウトナイ小学校の開校式典が予定されているので、委員の皆さんには出席をお願いしたい。
(吉本委員長) ありがとうございます。ただいま教育長の方から2点ばかり報告があったとおりでございます。一つは先ほどお話のありました全国の統一テストの件、もう一つは地方教育行政法における色々な対応が変わるかもしれませんが、教員の勤務評価制度という2点かと思われませんが、まず初めに全国の学力・学習調査の報告に関して、委員の皆様で何かご質問があればお受けしたいと思います。はい、どうぞ佐藤守委員。
(佐藤守委員) 検討委員会を立ち上げてということなのですが、その予定というのですか、いつごろ立ち上げてそれを学校に下してまたやってというようになると、かなり押し迫っているような感じがするのですが、どのような予定で進まれているのですか。
(村上室長) 24日に膨大な資料が送られてきたところでございます。まだ分析等しておりませんが、基本的に児童・生徒の個人表の配布につきましては、来週ぐらいに返却されることになると思います。
あわせて、市としての検討委員会につきましては、ご指摘のとおり早くというお話もありますので、できれば来月上旬には1回目を行いたいと考え

<p>ているところでございます。</p>
<p>構成員等、前回の定例教育委員会でお示した内容で進めていく方向で考 えておりますので、ご理解を願いたいと思います。</p>
<p>(吉本委員長) はい。室長の方からご答弁がありました、いいですか。</p>
<p>(佐藤守委員) はい。</p>
<p>(教 育 長) 当然、今回マスコミの方が先行して出ていますけれども、正直言って道教 委も検証委員会を開くと言っていますから、苫小牧も検討委員会を開くと いうことで、並行してしまうのです。ですから、北海道は北海道で各市町 村にこういうことを行ったら良いのではないかという方向を示してくる。 それがいつになるかということもまだわかりません。</p>
<p>そういう中で、当然地元ができることはまずしましょうという考え方で、 今立ち上げるわけはその辺の道教委の動き、国・文部科学省の動き、そう いうものを加味しながら、最終的に実施していきたいのですが、皆さんが 心配されているように、4月に実施して今、結果が出てきて実際に動ける 時にはもう子どもが卒業してしまうのではないかというご指摘もございま すので、やむを得ないなと思っておりますが、そもそも、4月に試験をし た中身は5年生までの問題とするとその結果を今度は生かすといっても、 6年生で今習っている中にはそれはもう出て来ないようなものですが、当 然、遅れているものを自覚するというか理解して、それを家族ぐるみで応 援しながら力を高めていく、行政もそういう支援をしていくということは、 必ずその先も生かせるだろうと思っておりますので、ご理解いただきたい。</p>
<p>(吉本委員長) ということでございますが、よろしゅうございますか。それでは、今後の 指導室はじめ教育委員会全体の中で、また、教育長からご指摘ありました 道教育委員会における検証委員会、これがどのような考えで、どのように して各市町村教育委員会に指導が下りるかというようなところも含めて、 また合わせて、苫小牧市教育委員会としても独自に一つの考え方を持ちな</p>

<p>がら、そこで接点を見出してどのようにして対応していくかということで、</p>
<p>教育長、そういうご判断でよろしいですか。</p>
<p>(教 育 長) はい。</p>
<p>(吉本委員長) そういうことでございます。それではもう1点の教員の勤務評価制度に関</p>
<p>しては、今、ご報告のあったとおりでございますので、これも地方教育行</p>
<p>政法の流れの中で、もっと具現化した形で各市町村教育委員会自身が、今</p>
<p>後どのような対応をしていくかということは、次年度から実施するという</p>
<p>ことだけは決まっているのでしょうか。どうなのでしょう。</p>
<p>(教 育 長) それがどうなるか。</p>
<p>(吉本委員長) わかりませんが、そのような状況にあるということだけ、教育委員</p>
<p>の皆さんは一つ認識していく必要があるということだと思います。</p>
<p>(教 育 長) 先ほどの説明の中でもお話ししましたが、胆振教育局の方では、今</p>
<p>組合と交渉しておりますので、そういうことがある程度進んだ段階で改め</p>
<p>て連絡しますという言い方をしておりますから、我々としてはそれを待つ</p>
<p>形になりますが、どうも簡単には行きそうにないということもあるもので</p>
<p>すから、どうなるのか。最後は市教委で判断してくれというようになって</p>
<p>しまうのではないかとということもあって、そうなった時にその場で突然降</p>
<p>りてきても混乱しますので、事前にそういう動きがあるということで、今</p>
<p>回は報告させていただきました。また別の機会に資料等もお渡ししながら</p>
<p>説明する場面も出てくるかもしれませんので、今日は知っておいていただ</p>
<p>ければと思います。</p>
<p>(吉本委員長) ということで、この2点目の勤務評価制度に関しては、何かまたご質問が</p>
<p>あるかもしれませんが、今後、具体化した中で議論を進めていきたいと思</p>
<p>いますが、よろしゅうございますか。(一同「はい。」の声)</p>
<p> </p>
<p> </p>

4 議 案 審 議

議案第1号 苫小牧市立第15中学校（仮称）の建設場所及び通学区域について

（澤田石 学校教育部長より 提案説明）

・ 2月の予算委員会で、すでに案として議会に示し、8月には地域住民説明会及び保護者説明会を開催して、意見等を聞いたところであるが、その中では特に示した案に対して異論がなかったことから、本委員会において決定をお願いしたい。

・ 別添資料の2ページ、建設場所は拓勇小学校の北西の黒塗り部分で、地番は字沼ノ端187番地、敷地面積は約32,800㎡となっている。

・ 通学区域は1ページの資料より、明野中学校の通学区域となっている新開・明野元町地区及び沼ノ端中学校の通学区域となっている臨海西地区で斜線で囲んでいる部分の児童・生徒が対象となる。

・ 第15中学校（仮称）の建設は平成20年度ということで、通学区域の適用は平成21年4月からを予定している。

（吉本委員長）はい。ありがとうございます。只今、議案第1号について、澤田石学校教育部長からご説明がございました。この件に関しまして、委員の皆さん、何かご質問等お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（鈴木委員）この明野元町地区から、この第15中学校までだいたい直線でどのくらいの距離なのでしょう。

（澤田石部長）約1.5kmです。

（吉本委員長）よろしいですか。鈴木委員さん。

(鈴木委員) はい。
(吉本委員長) 他にご質問ありませんか。はい。佐藤守委員さん。
(佐藤守委員) 沼ノ端中学校のプレハブ校舎を使用しなくてよくなると思いますが、その後また沼ノ端地区が増えるので、プレハブはそのまま残すという形でしょうか。
(澤田石部長) 当面、ウトナイ地域、それから臨海東地域、ちょうど沼ノ端自動車学校から東側の地域なのですが、ここもこれから児童・生徒が増えることも考えられますので、このままプレハブを残して対応したいと考えております。
(教 育 長) 沼ノ端中学校の方はまだどうするか決まっていらないのですが、多分、壊さ ないで置くということでしょう。
(佐藤守委員) レンタル代など色々考えると。
(澤田石部長) 結構、立派なプレハブになっていますので、これからも人口増加ということ とは、当然、第15中学校もそうですし、沼ノ端中学校の方も増えるとい う見込みがありますので、当面は今話しているような形でいきたいと考 えております。
(吉本委員長) 佐藤守委員さん、よろしいでしょうか。
(佐藤守委員) はい。ありがとうございます。
(吉本委員長) 他にご質問はございませんか。それではご質問がないようでしたら、議案 第1号、苫小牧市立第15中学校仮称ですが、建設場所及び通学区域につ いて、只今ご提案がありましたとおり、皆さんご承認いただいてよろし うございますか。(一同「はい。」の声) よろしいですか、それでは議案第 1号は承認したことと致します。ありがとうございました。
— 建設場所・通学区域原案通り承認 —

議案第2号 苫小牧市立第15中学校（仮称）の校名の決定について

（澤田石 学校教育部長より 提案説明）

・ 9月1日から12日の期間に、広く市民から市の広報とまこまい及びホームページを通じて校名の募集を行い、応募件数は49件で、複数応募や応募内容の不備ということとでまとめた結果、最終的に校名の候補数としては26件となり、参考資料として7ページに26件の校名候補一覧を付けている。

・ この中から、地元町内会長2名と沼ノ端中学校及び明野中学校のPTA会長、学校長、教育委員会から学校教育部長、指導室長の合計8名で組織された校名選考委員会で、10月16日に選考委員会を開催し、意見交換、投票を行った結果、資料4ページの校名選考委員会投票結果表のとおり、1回目の投票では各委員それぞれ3つの校名を選んで投票するという形式で選考を行い、「拓勇(たくゆう)」、「青翔(せいしょう)」、「白鳥(はくちょう)」の上位3つがまず候補に決まり、1票ずつの得票で並んだ候補から残る2つの候補を選ぶために2回目の投票で「新生(しんせい)」、3回目の投票で「曙(あけぼの)」が上位となり、5つの候補名が決まった。

・ 資料5ページに校名候補の一覧表ということで、命名理由を記載しているので、これらを参考にご審議をお願いしたい。

（吉本委員長）ありがとうございました。議案第2号の校名の決定でございますが、まず澤田石部長さんの方からご説明があったとおりでございます。資料も何点かここに添付されておりますが、委員の皆さんの中でご質問がありましたらお受けしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（鈴木委員）よろしいですか。選考の結果なのですが、1回目の投票で「拓勇」が5票ですか、それから「青翔」が4票、そして「白鳥」が4票で、2回目の投

票で「新生」が6票ですか、3回目が5票で「曙」となっているのですけれども、1回目の「拓勇」「青翔」「白鳥」の3つに絞ったということではなくて、その他にもまた選んだということでしょうか。
(澤田石部長) 当初から、5つの校名を選定するという前提条件の中で選考させていただいたものですから、とりあえず、最初の段階で得票の多い校名を3つ出しまして、その後一つずつ追加したものです。
(鈴木委員) わかりました。
(教 育 長) 同じ票の数でも重みが違うのです。最後の3回目は5票になっていますけれども、1回目の頃には全然上がってこなかったということです。
(鈴木委員) わかりました。
(吉本委員長) ここでよろしいでしょうか。発言を許させていただければ、この校名の条件ということで、資料の6ページに書いていますが、当然、新しい中学校にふさわしい意義があり親しみやすい名称であることとか、校名が漢字の場合は当用漢字を使用しふりがなをつけること、東西南北の方位そのものを校名にしないこと、市内の他の学校名と文字や読み方が紛らわしくないことというものを押さえた中で、3回の投票の結果、5つの校名候補が出てきたということで理解して良いわけですね。この中でどの校名が最適であるかということでございます。これは非常に難しいところです。選考委員会に出席されていた方がいらっしゃれば、その場の雰囲気なりを失礼ですがお聞かせいただければ、出席されていたのは澤田石部長さんですか。
(澤田石部長) 私の方から、まず地元という考え方で「拓勇」という名前がその地域の歴史的いわれで選考委員として参加された方から強く推していたといえますか、そういうようなことが一つございます。ただ、拓勇小学校と同じ名前なのでそういうようなところの加味が一つあるかなという感じでございます。あとは、どちらかというところそれぞれの命名の理由から、ふさわしいものを選考させていただいたというような状況でございます。

(吉本委員長) 只今、澤田石部長さんのお話しでしたけれども、やはり地域的なつながり
地域でつけられている名前である「拓勇」というものを尊重したという感
じが強いのですか。
(澤田石部長) 応募件数も複数の部分で非常に多かったもので、そういうような形で。
(吉本委員長) それと今、現在の拓勇小学校との関連からいきまして、仮に「拓勇中学校」
ということになった場合に、その頭にはいずれも拓勇が付くというこの関
連というのは、果たして将来において問題を生むのか生まないのか、学校
がこれ以上増えなければ良いのでしょうか、将来どうでしょう。
(澤田石部長) 選考委員さんの中からは、例として同じように小中同じ名前があるのか、
というご質問もございました。確かに、東小・東中、明野小・明野中、勇
払小・勇払中というようなケースがございますので、必ずしも同じ名前が
如何かというところまではいっておりません。
(吉本委員長) そうですか。他に何か。はい。佐藤郁子委員。
(佐藤郁委員) 沼ノ端の町名のことで、長らく色んな問題というか、感情的なものもあり
ますから、地域の名前に思い入れもあると思ったのですが、小学校と中学
校があるということに対して異議があるということはありませんでしたか。
別な名前にした方が良いのではないかとすることは。
(澤田石部長) そこまではなかったです。それと参考までですが、只今、ここは沼ノ端と
いう地名になっておりますが、区画整理が終了して換地処分が行われまし
たら、来年の早い時期にそれぞれこの地域もまた小さく町名が付与され
ますので、そこには北栄町ですとか、そういう名前にまた変わっていくと
いうこともございます。
(佐藤郁委員) 特にそのことについて、別々の方が良いのではないかとするか、そういう
意見は出ていませんでしたか。
(澤田石部長) 特に強い意見という部分はなかったですね。
(佐藤郁委員) なかったですか。

(澤田石部長) ただ、新しい学校ですから、そういう意味では新しい気持ちで付けた方が
という雰囲気はございました。
(佐藤郁委員) 今、命名理由を読んでいまして、前からある名前が良い側と、全く新しい
方が良いのではないかという側に分かれているような感じが受けましたの
で、同じ名前の小中と付くことにこだわる方がいらしたかどうか、今伺っ
たのです。
(澤田石部長) お互いに強くは言葉として出してなかったです。
(佐藤郁委員) そうですか。ありがとうございます。
(吉本委員長) よろしいですか。澤田石部長さん。現在の地番は字沼ノ端187番地で、
通称いわれている拓勇地域ということで、小学校もあって中学校をどうす
るかという段階なのですが、ここで校名を決定しても将来の地名ですか、
これがいつになるかわかりませんが、その時に変わったら、校名も
変わっていくということではないですね。
(澤田石部長) そうですね。
(吉本委員長) ならないわけですね。
(澤田石部長) 校名に関しては最初に付けた名前ですとまいますので、
(吉本委員長) そうですか、わかりました。そのことで町名が変更しても校名は変わらな
いという前提からすると、これは揺るぎない名前としてずっと将来続いて
いくということですね。地番は変わっていくということで、そこだけ確認
させていただきました。
それでは、どういたしましょうか。色々この一覧表の中で命名の理由が書
かれておりますが、それぞれもったもな感じですが、これはどうしましょ
うか。皆さん教育委員の中で決めるということになっていますから。
鈴木委員さん辺り何か、心を掴むというか、コメントがあればお願いした
のですが。
(鈴木委員) 下手な事を言うとそれが決まった時に、その名前が付くわけですから、下

手なことはいえないし、軽くはないと思うのですが。

(教 育 長) 委員長さん。もし良ければ、少し休憩をして自由な意見交流をして、まとめつつある状況のところで会議を再開するという形ではどうでしょうか。

(吉本委員長) それでは、ここで一旦、会議を中断させていただいてよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声) それでは休憩に入ります。

— 休 憩 —

(吉本委員長) 休憩を解きます。議案第2号の第15中学校の校名につきまして、色々と議論がありましたが、ここで、地元にゆかりのある地名として命名理由とされた「拓勇」という校名と、若者の澁刺としたイメージと無限な可能性を秘めた子ども達が未来に羽ばたくイメージで命名理由とされた「青翔」という校名の二つを五つの中から選出しまして、只今から多数決をもってこの教育委員会において決定をさせていただきたいというふうに思いますが、まず、この点でご異議ありませんか。(「異議なし」の声) 異議なしということでございます。

それでは、まず、「拓勇」ということで、校名を付けてはどうかという委員の方、挙手をお願い致します。(手を挙げるものなし) ありがとうございます。それでは、「青翔」ということで校名を付けてはどうかという方、挙手をお願い致します。(委員全員挙手) はい。ありがとうございます。

私を含めて5票ということで、その結果、苫小牧市立第15中学校の校名は「青翔」ということになりましたので、改めて確認方、報告をさせていただきます。

— 校名は「青翔 (せいしょう)」で決定 —

5 協 議
協議する事項なし。
6 そ の 他
(1) コミュニティセンターの図書コーナーについて
(今田 スポーツ生涯学習部長 概要説明)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月28日の定例教育委員会において、4か所のコミセンの図書コーナー等についての補助執行の事務手続きを行うということで説明をしていたが、10月10日に協議を行い、同月12日正式に協議が整い、手続きが終了したことをここに報告させていただきます。
7 委員会閉会の宣言 (吉本委員長) …16時06分
以上のとおり会議の概要を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。